

いただきます。

R7.5



SDGs と食生活の疑問



住み続けられる街づくりを

だれもがずっと安全に暮らせて、災害にも強いまちをつくろう！

コミュニティの絆と個人の安全を強化しつつ、イノベーションや雇用を刺激する形で、都市その他の人間居住地の再生と計画を図ることを目指したものです。

二十四節気で季節をめぐるります。



青空が広く、雲も大きく、風が気持ちよく、まさに初夏到来。
晴れた日は散歩をしていると汗ばむ陽気です。
紫外線対策も忘れずに。
この日から8月8日の立秋の前日までが夏です。

「端午の節句」

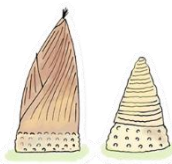
江戸時代に重要な年中行事として年に5日の祝日が制定されました。これを五節句といい、そのひとつが5月5日の端午の節句です。生薬としても知られる菖蒲で邪気を払う中国の古い風習と、5月の田植え前に早乙女（田植えをする神聖な女性）が家にこもり、田の神を迎えて祀る日本古来の農耕儀礼が結びついたものが、端午の節句の原型になったとされています（もともとは女性の日でした）。

時は流れ、中国の「龍門に登って鯉が龍になった」という故事にあやかり、江戸時代には鯉のぼりを立て武者人形を飾るなど、端午は男の子の成長を祝い健康を祈るための節句となりました。



旬の食材【たけのこ】

現代は栽培技術が向上し、一年中出回る野菜も多くなりました。そんな中、たけのこはまさに期間限定で八百屋やスーパーの店頭並びます。読んで字のごとく、竹かんむりに旬と書き「たけのこ（筍）」と読みます。たけのこごはん、煮物、刺身、香りを存分に楽しめるホイル焼きなど、ひとつ買えばたくさんのレパートリーが楽しめます。日本のたけのこの歴史は古く、古事記にも登場します。たけのこは古典文学に登場した最初の野菜なのです。



近年、国内外で異常気象が頻発しており、特に2018年は、記録的な大雨や猛暑及び台風により多くの被害が発生しました。世界気象機関（WMO）は、これら異常気象は長期的な温暖化の傾向と一致していると発表しています。温室効果ガスの排出抑制等を図る「緩和」はもちろんのこと、気象災害リスクの増加等に対処するための「適応」の取組が必要であり、それを契機として地域社会・経済の健全な発展につなげる視点も重要です。（令和元年版環境白書より）

「災害時もライフラインに」

A社では、大規模な災害時に事業を継続するための対策をまとめた「災害マニュアル」を発行しています。大災害に備えて普段から本部や店舗で準備しておくこと、災害が発生した時の対応、震災後にニーズが高まる商品群などにまとめています。

大規模災害が発生した際は、全国規模を生かして緊急物資を被災地の加盟企業に送ります。地区本部・支社の11センターから水、カップ麺、無菌米飯など緊急対応商品を積んだ10トントラックを9時間以内に被災地に向けて送り出すのが基本となっています。

